

経営理念	【明るく活発な子どもたちが自分を大切に、友だち一人一人を大切にする中で、確かな人権感覚を身につけ子どもたちの『もっと勉強が分かるようになりたい』という願いの実現に向け、学習に生き生きと参加できる取り組みを進め、『生きる力』をはぐくむ教育を創造】	
	児童の姿	伝え合うことで心を通わせる子ども 自分や友だちを大切にする子ども なかまとつながり、力をあわせて活動する子ども
	学校の姿	一人一人の子どもを大切にする人権が尊重された学校 子どもの笑顔があふれる安全で安心な学校 教職員の笑顔あふれる学校 家庭や地域と協働する開かれた学校
	教師の姿	豊かな人権感覚を身に付けた教職員 子ども、家庭、地域の願いを受け止める教職員 子どもを肯定的にとらえ、子どもと共に学ぶ教職員 常に、自らを高める努力をする教職員 出来ない理由を探すのではなく、どうすれば出来るかの追求をする教職員

	中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策
			達成状況	評価	考察	評価	
豊かな心の育成	1 自分や他の人を大切に する豊かな人権感覚 を身につけ、生活の中で 行動できるようにする。	自分や他の人を大切に思う言動がとれるようにする。	友だちを大切にする言動が取れている子どもが多い。まだ自分勝手な言動からトラブルになることがある。	B	一つ一つのトラブルの原因を当事者や周囲の子どもたちも含めて話し合い、思いやる心を育てる仲間づくりにつなげてほしい。	B	良い行動は評価し、友だちへのかかわり方を指導していく。
		学校や社会のきまりを守れるようにする。	トイレのスリッパの整頓や週明けのゴミ拾い、チャイム席なども子どもたちが進んでできるようになってきている。しかし、教師の目の届かない所では言葉づかいがよくなかったりルールが守れなかったりする子どももいる。	B	下級生の中にきまりを守れていない姿が目につくことが多い。 ルールがなぜ必要なのかについて子どもに投げかけたうえで、習慣付けてほしい。子どもたちが決められるルールも大事にしてほしい。	B	教職員が共通理解を図り、全校の子どもに指導していく。
		さまざまな人との出会いを通じた学習や地域についての学習などをすすめて、学習したことが生活の中で行動できるようにする。	さまざまな出会いを通じた学習は計画的に進めることができた。その結果、知識としては身につけてきているが、行動化までは難しい面がある。	B	地域に学ぶ姿勢はとても評価できる。自ら他の人のためにと行動する姿も見られる。 地域での学習により過去を学び、現実を知るにとどまらず、これからの自分たちがどうあるべきかを考えさせてほしい。	B	授業の中に探究的な活動を多く取り入れ、地域の中で学習したことをもとに子どもが自分自身を振り返り、行動につなげていけるようにしていく。
学力の	2 基礎学力の定着・学力向上とその基盤となる基本的な生活習慣の確立	わかる楽しい授業にするため、授業研究や授業評価を積極的に進め、授業の改善に努める。	4段階ステップを意識して授業を組み立てることができている。授業研究を通して児童理解や授業改善について学ぶことができた。	B	年間の授業研の実績は非常に素晴らしい。今後更期待したい。	A	今後もさらに授業研究を推進し、児童の主体的な学びを実現していく。

経営理念	【児童一人一人が生涯にわたって、自律的によりよい生き方を目指すための基礎となる、豊かな心と確かな学力、健やかな体を身につける】	
	学校教育目標：「かがやけ香我美！楽しい学校！～かしこく・やさしく・たくましく～」	目指す児童像 仲間とともに伸びる子ども 自分で考え行動する子ども 最後までやりとげる子ども 明るく元気な子ども
	望む教師像 児童の心に寄り添う教師 豊かな教育力を持ち、児童や保護者に信頼される教師 協働・協調の精神、使命感ある教師	求める学校像 授業が面白い学校全員 仲間と集える学校 安心して通える学校 誰からも信頼される学校
	経営方針：学校教育目標を達成し、児童像、教師像、学校像を希求するために、子どもが自分への信頼を持つことができる学校を中心理念として学校経営を進める。	
	全員が登校する学校 学ぶ、考える、認め合う、励まし合う、楽しさのある学校 受容と共感にあふれ、支え合う仲間がいる学校 授業を改善する学校 めあてとまとめを明らかにするとともに、目標に沿った授業づくり 展望を持った、蓄積のある授業づくり 組織力を発揮する学校 目標と目的を共有し、ベクトルを合わせて実践する 情報共有から組織的対応を進める	

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
豊かな心 自分への信頼の育成 (自己指導能力の育成) ・自尊感情と社会性、規範意識の育成 ・安定し、安全な学校生活 全員が登校する学校 ・児童が過ごしやすい居場所の保障 ・共感的・受容的な人間関係の育成 心身ともに健やかな身体づくり ・バランスのとれた運動能力の育成 ・基本的生活習慣の定着	自分自身のよさに対する自覚の向上(自尊感情・自己肯定感、規範意識、あいさつ、有用感)	<児童生徒アンケート>自己肯定の肯定評価が95.9%(+14.5%)となっており、自分自身のよさを自覚する児童が大きく増加している。 <生活アンケートのあいさつに関わる肯定的評価が96.7%(+8.4%)となっている。あいさつ運動等により、あいさつをする児童が増加傾向にある。 認められ感については93.4%であり、目標を達成できた。対教師感92.5%(+7.2%)であった。	A	・学校評価アンケートから、児童の肯定的評価が大きく増加しており、学校の取組みの成果が見られる。 ・保護者と連携を密にし、継続した取り組みを望む。	A	全体的に意識の向上が見られるが、「言葉のシャワー」等を継続し、児童の頑張りを互いに認め会える場の設定を増やす。児童には教師が価値付けをして、具体的な行動指針を示す。	
	自己への信頼の育成(自己指導能力の育成) ・自尊感情と社会性、規範意識の育成 ・安定し、安全な学校生活 全員が登校する学校 ・児童が過ごしやすい居場所の保障 ・共感的・受容的な人間関係の育成 心身ともに健やかな身体づくり ・バランスのとれた運動能力の育成 ・基本的生活習慣の定着	道徳教育、人権教育の充実とその実践力の向上(授業研究、道徳意識調査、規範意識)	<児童生徒アンケート>規範意識については95.9%であり、良好な規範意識が定着しつつある。 <道徳アンケート>道徳の時間について87.7%(-3.1%)が肯定的で、良好な傾向を維持している。 <学習アンケート>「思考」は84.8%(+10.7%)、「発表」は74.3%(+10%)が肯定的であり、学習活動への意欲が向上している。	A	・道徳教育の取組みの成果を生かし、中学校区で実践を継続しており、チーム香我美の成果が表れている。	A	・全体的に意識の向上が見られるが、場に応じて指導すべきことを指導するとともに、道徳教育を中心に社会性や規範意識を育て、具体的な行動化につなげる。 ・学びの居場所づくりとしてお互いの意見を受容的な聴き方を指導する。
	自己への信頼の育成(自己指導能力の育成) ・自尊感情と社会性、規範意識の育成 ・安定し、安全な学校生活 全員が登校する学校 ・児童が過ごしやすい居場所の保障 ・共感的・受容的な人間関係の育成 心身ともに健やかな身体づくり ・バランスのとれた運動能力の育成 ・基本的生活習慣の定着	生徒指導上の諸課題改善に向けた効果的対応(長欠・不登校児童対応、問題行動発生率)	<学校生活の状況>学校生活アンケートでは学校生活の肯定的評価が95.1%(+7.5%)となっており、学校生活全般について安定傾向が見られる <生徒指導上の諸問題調査>不登校4名となり昨年度より減少(-2名)した。いじめ認知件数、暴力行為については変化がなく、安定している。	A	・学校評価アンケートから、児童の肯定評価が増加しており、学校生活が安定している。 ・不登校児童への対応に努めている。	A	気になる児童を早期に把握し、家庭とも協力しながら支援を行う。学びの居場所や友達との絆作りに視点を置いて組織で取り組む。アンケートの肯定層にも配慮する。
	自己への信頼の育成(自己指導能力の育成) ・自尊感情と社会性、規範意識の育成 ・安定し、安全な学校生活 全員が登校する学校 ・児童が過ごしやすい居場所の保障 ・共感的・受容的な人間関係の育成 心身ともに健やかな身体づくり ・バランスのとれた運動能力の育成 ・基本的生活習慣の定着	特別な教育支援の必要な児童に対応する校内体制の整備・実効性のある実践(情報共有、支援委員会、校内研、Q-U、SC、SSW活用)	<校内支援委員会>定例校内委員会や拡大支援委員会を100%実施できた。 <学校評価>先生が相談に応じるについて児童肯定91.1%(+5.3%)、願い、意見を聞くは92.8%(+4.5%)となり、受容的な風土が広がっている。 <QUアンケート>2回目の満足群が増加した学級もあったが、全体的に大きな変化がなかった。ブロックの話合いを広げ、全体で共通理解を図った。	A	特別な教育的支援の必要な児童について、校内支援委員会を実施し、全教職員で共通理解を図りながら、チーム香我美として組織的に取り組むことができています。	A	SCやSSWと連携を図り、児童の特性理解や家庭の支援を行うとともに、コーディネーターを中心に校内委員会を行い、組織で具体的な支援策を探る。
	自己への信頼の育成(自己指導能力の育成) ・自尊感情と社会性、規範意識の育成 ・安定し、安全な学校生活 全員が登校する学校 ・児童が過ごしやすい居場所の保障 ・共感的・受容的な人間関係の育成 心身ともに健やかな身体づくり ・バランスのとれた運動能力の育成 ・基本的生活習慣の定着	安定した学校生活を支える多様な運動機会の提供と基本的生活習慣への全校取組(かがみ元気っ子カード、体力調査)	<元気っ子カード>「朝食を食べる」の達成率は、99.4%で高率を維持しているが、起床80.4%、就寝が73.3%で課題が残る。また、達成度は学年によってばらつきがある。 <学校評価>基本的生活習慣の定着についての保護者肯定は65.8%(+3.2%)に留まっている。 <体力調査>4～6年の運動能力調査での判定で、DとEが33.1%となり、目標値を6.1%下回った。全体では、握力とシャトルランに弱さが見られた。	B	・「かがみ元気っ子カード」を活用し、基本的生活習慣の定着に努めている。 ・起床、就寝時刻の課題について、家庭と連携した取り組みを望む。	B	「かがみ元気っ子カード」を継続し、学力や体力とも関連付けながら、保健便りや掲示物の充実を図り、基本な生活習慣の大切さを啓発していく。また、保健委員会の活動を通して生活習慣についての意識付けをする。

確かな学力	<p>子どもが活躍する授業づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な学習内容の定着 ・思考力・判断力・表現力の育成 ・主体的に学習に取り組む態度の育成 ・生徒指導の3機能を生かした授業づくり ・基礎学力の定着と体力の向上 ・学習習慣の定着 ・目的的家庭学習の提示 	<p>基礎基本を培う授業(全国学力・学習状況調査,標準学力調査)</p>	<p><全国学力学習状況調査,標準学力調査> 全国学力調査では全国平均比国語A+3.9P,B+1.5Pと良好であったが,算数A-4.6P,B-6.9Pであり,課題が残る。標準学力調査では,評定1の割合が依然として高く(各教科25%以下,国語4年,算数2・3・4年)基礎的な学習内容の定着を一層強化する必要がある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査から課題を明確にし,基礎基本の学習内容の定着に努めている。 	B	<p>授業づくりBasicガイドブックを基に「見通し」「まとめ」「ふりかえり」を徹底し,授業の流れを明確にしたうえで,基礎学力の定着を図る。</p>
		<p>自分の考えを発表して話し合ったり,練り合ったりする授業(学習アンケート,授業評価,学校評価)</p>	<p><学校評価> 向上の実感の肯定層89.5%(+2.9%) 学習の理解度は91.2%(+3.9%)であり,学習に積極的に向かう姿勢が向上している。生徒指導の3機能を活かした授業づくりを意識し,自己決定・発表の場を設定するようにした。<学習アンケート> 「思考」は84.8%(+10.7%),「発表」は74.3%(+10%)が肯定的であり,学習活動への意欲が向上している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートから,児童の学習への肯定は増加しており,児童の事故候手感や自己存在感などを高める授業づくりの取組みの成果が見られる。 	A	<p>生徒指導の3機能を活かした授業づくりの視点を明確にし,授業研究を続けていく。</p>
		<p>生徒指導の3機能の視点到った指導(授業スタンダード等を授業づくりに生かした授業改善,めあて・まとめの明示,「BASIC授業づくり」の活用)</p>	<p>「BASIC授業づくりの活用」を参考に香我美小算数のスタンダードを活かした実践を全学年で行うことにより授業改善に努めた。全学級が授業研究をし,授業づくりについて全教職員で研修を行うことができた。また,生徒指導の3機能を活かした授業づくりを意識し,自己決定・発表の場を設定するようにした。<学習アンケート> 表現に関わる「発表」と「書く」の設問の肯定層が70%台に留まっている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童が活躍する授業,生徒指導の3機能を生かした授業づくりに学校全体で取り組んでいる。 ・授業を改善する学校となるよう努めている。 	B	<p>表現に関わる「発表」と「書く」の設問の肯定層が伸びていないので,思考時間を確保し,発表を小グループで行い自信を深められるようにする。</p>
		<p>家庭学習の習慣化への取組(家庭学習の手引き活用,自主学習ノート展)</p>	<p><学習アンケート> 家庭学習時間の達成度は1回目85.5%,2回目89.3%と微増している。 <自主学習ノート展> 1・2学期行った。2学期は岸本小との交換掲示,香我美中のノート掲示を行い,学習意欲の向上を図った。 <学校評価> 家庭学習の習慣の肯定層は児童87.1%(+2.8%)だが,保護者は44.7%(比較資料無)となり,児童と保護者の受け止めのずれが大きくなっている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートから,家庭学習の児童の肯定は高く,学校の取組みの成果が見られる。 ・家庭と連携を図りさらなる取組みを望む。 	A	<p>家庭学習の手引きの配布を継続する。家庭と連携を取りながら,保護者にも変容の実感が得られるように,学習アンケートの結果を通信などで知らせしていく。自主学習ノート展を行い,主体的に家庭学習に取り組むことが出来るようにする。</p>
信頼される学校	<p>保護者や地域に信頼され,期待される学校づくりの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区連携 ・情報発信 ・危機管理体制の整備 ・避難訓練 ・危機管理マニュアルの修正 	<p>保護者や地域への積極的な情報発信(学校・学年・学級だより)</p>	<p><学校評価> 保護者の肯定層が65.2%(+9.7%)になり,経年で増加している。肯定層の増加率が近年になく高くなっており,学校・学級だよりによる情報発信の成果が表れている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域への積極的な情報発信ができています。 	A	<p>週1回の学校だより発行を継続するとともに,参観日の党の際に,児童の生活に関する視覚的な情報を提示する。</p>
		<p>保護者や地域と連携した学校行事等の工夫と中学校区連携による教育活動(学校評価,学校支援地域本部設置準備)</p>	<p><学校評価> 行事等の保護者の肯定層は76.5%(+3.1%)で保護者との連携が昨年度よりも向上している。参観日や懇談等の機会の満足度は向上しているが,日々の関わりも一層強化したい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と連携して取り組むことができています。 	B	<p>参観日や行事等は維持し,学校だよりや学級だよりによる保護者等への呼びかけを継続する。</p>
		<p>学校評価・学校関係者評価の実施(結果公表,学校運営への反映,学校評議員会の実施)</p>	<p><学校・関係者評価の実施> 計画通りに教育活動を点検し,学校経営の改善に生かしている。保護者肯定層は60.4%(+5.4%)となっている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を実施し,課題を明らかにしながら信頼される学校づくりに努めている。 	A	<p>学校評議員との連携を継続するとともに,学校評価の際には,保護者に評価の観点を示し,中間層を減少させる。</p>
		<p>危機管理マニュアルの活用と危険予知能力の向上(防災・不審者訓練,安全指導・安全点検,香南地区防災訓練)</p>	<p><学校評価> 保護者肯定層は65.7%(+3.1%)となり,日々の学校生活全般で児童が安全に留意した生活を送るよう指導していることや避難訓練等の実施を発信していることが評価を得ている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理については,危機管理マニュアルを活用し,安心安全な学校づくりに努めている。 	A	<p>避難訓練により児童の防災意識を高めるとともに,防災対策課と連携し危機管理マニュアルの整理を進め,危機管理体制を充実させる。</p>

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

向上	をめざす。		児童が主体となって学びを進めていくことに関しては、十分とは言えない。				
		保護者や地域の人とともに、算数教室や放課後加力学習などを実施して基礎学力の定着・学力の向上を図る。	継続して取り組んでいることで習慣化し、学力の向上につながっている。 算数教室での態度があまりよくない時期もあったが、指導を重ね改善されてきている。 取り組みへの意欲には個人差がある。	B	研究を積み上げ、さらに改善策も工夫されている。夏休みの算数教室以外にも個別の取組等よくがんばっている。 算数教室に来る目的を年度当初に再確認したうえで取り組むようにすると、より効果的だと思われる。	A	意欲が高くない児童へも声かけや目に見える形での評価で意欲を高めていく。 意欲が高く進度の速い児童への課題をレベルアップさせる。
		言語能力育成プランに基づいた実践を行い、「話す」「聞く」「読む」「書く」力を育成する。	月ごとの目標の掲示物を意識して取り組むことができた。 決められた字数を書き切ることが身についてきたが、与えられた条件に合わせて書くことは十分に身につけているとは言えない。	B	今後も改善に向けて不断の努力を期待する。	B	学年に応じて条件を設定し、繰り返し書き方を指導していく。
		健康や食に関する取組や体力づくりを進め、学習の土台づくりをする。	保護者や地域の方と一緒に健康参観日や朝食作りなどの学習に取り組み、啓発を行った。 業間体育や朝のストレッチ運動も計画的に実施できた。	A	これまで積み上げてきた実績の上に、食育が子どもの生きるエネルギーとなるよう継続してほしい。	A	食に関する取組は家庭の理解を得ながら定着してきているので、さらに今後も継続できるようにしていく。 体力作りは測定結果なども参考に年間計画を立て、実施していく。
信頼される学校	3 一人一人が大切にされ、安全に学べる学校にする。	楽しい学校づくりのためのアンケートQ Uを活用して学級集団づくりを計画的にすすめる。	年間2回のQ Uの実施や分析とその結果の共有を行うとともに、児童の実態把握に努め、どの子どもにも居場所のある学級づくりに取り組んできている。 SC、SSWとの情報交換も継続して行うことができた。	A	教職員集団が絶えず実態把握に努め、情報共有し、児童一人一人への指導・助言に努めている。	A	児童の情報収集に努め、様子の变化などには早期に対応していく。 Q Uの研修を生かし、仲間意識をさらに高めていく。
		児童会活動や縦割り班活動を通じてリーダーを育て、集団づくりを進める。	縦割り班活動では、5・6年生が中心となって取り組んでいる。 児童会活動もさまざまな発表などを行っており、下級生にもお手本となる場面もみられている。一方では、上級生が下級生に考えを伝えきれない部分もある。	B	縦割り班活動等が十分できている。5・6年生はリーダーとしての取組ができている。	A	上級生としての自覚を持たせ、下級生の手本となるようにしていく。また、上級生の良いところを見つけることができる下級生になれるように指導していく。
		特別な教育的支援の必要な子どもに対する取組を組織的・計画的に進める。	特別支援に関する校内研修や配慮の必要な児童に対して支援会を計画的に行い、個々の状況に応じた支援ができている。 気になる様子が見られる児童に対して、専門機	B	児童館につなげる等パイプ役を果たしている。学校から地域へと具体的に対応している。 (夏休み期間中も)	A	いろいろな角度から子どもの様子を見取り、効果的な支援を行う。 特別支援教育部会を定期的に行うようにする。

			関の紹介や教育相談など組織的な対応ができた。		一人一人に対して全教職員が共有し、個別対応ができています。赤岡小の子どもとして対等に関わっている。 特性として周りは理解し、互いに尊重し合っている。		
	子どもや保護者が悩みを相談しやすい学校にする。		日頃から保護者との関係づくりに配慮し、日常的な家庭訪問に努めている。	B	アンケート調査や学級便りを活用しながら保護者の声を反映させるような工夫をしてほしい。 引き続き家庭訪問を重要視して取り組んでほしい。	B	日常的な家庭訪問に努める。 SC、SSWと子どもたちが気軽に相談できる場の設定をしていく。
	防災教育や危機管理体制を充実させ、子どもの安全を確保する。		避難経路の見直しを行ったうえで、避難訓練を実施することができた。	B	各種の防災訓練を子ども主体で実施していることを高く評価している。継続してほしい。	A	さまざまな状況を想定して避難訓練の内容を検討し、実施する。
4 開かれた学校づくりを進め、保護者や地域の人とともに子どもを育てる。	学校だよりやホームページを通じて学校の情報を積極的に提供する。		各種お便りを通じて、学校の取組や子どもたちの様子を情報発信している。 ホームページの定期的な更新が行えなかった。	B	ホームページに研究推進や学校評価についても掲載し、更新してほしい。	B	ホームページの定期的な更新や各種お便りの充実を図ることで、児童の様子や取組内容について積極的に情報発信していく。
	保護者や地域の人と共にいろいろな行事に取り組む。		さまざまな行事に地域と協働して取り組むことができた。	A	黒潮の子ども応援隊や地域の方々、PTAの皆様と協働しながら行事に取り組んでいる。	A	行事の精選を行い、できるだけ多くの保護者が参加できるような工夫をする。
	保護者に対して家庭学習の手引きなどを配布し、家庭学習の環境を整える。		保護者の協力を得ながら、家庭学習の定着が図れてきている。一方で、限られた児童ではあるが、家庭学習の定着が難しい児童がいる。 家庭学習の手引きの配布や自主学習ノートの掲示などにより、子どもたちに学習方法が身につけてきている。	B	学校の改善策に基づき、家庭学習の推進に努めてほしい。	B	保護者への働きかけを継続するとともに、子どもへの個別の支援を引き続き行っていく。 自主学習の内容の充実をさらに図る。
	保育所や他の小学校・中学校と連携し、共に取り組む活動を充実させる。		合同の教材研究や交流活動など、年間を通して計画的に取り組むことができた。 中学校の先生が乗り入れ授業を行うため来てくれているが、子ども同士の交流が少なかった。	B	学校の改善策に基づき、保小中の連携した取組の充実に取り組んでほしい。	B	充実した取組を行えるよう、今後も目的や内容を常に確認しながら実施する。

【評価基準】(個人) A - 4点(十分満足) B - 3点(おおむね満足) C - 2点(もう少し努力すべき) D - 1点(大いに努力が必要)

(総合) A - 85%以上(十分満足) B - 84~70%(おおむね満足) C - 69~50%(もう少し努力すべき) D - 50%未満(大いに努力が必要)

平成29年度 香南市学校評価報告書

香南市立岸本小学校

経営理念	<p>【教育目標：共に学び合い、豊かな心を持ち、元気でたくましい岸本っ子を育てる】</p> <p>○教職員の基本姿勢：『私たち岸本小学校教職員は、教育に携わる人間として情熱と誇りを持ち、明るく元気に意欲ある教育活動を展開していきます。』</p> <p>○学校経営の基本的な考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「岸本小児童の幸せのため・岸本小児童の健やかな成長のため」を常に基軸とし、教育目標の達成をめざしていく。 2. 岸本のおよき伝統と校風を継承しつつ、新たな教育活動（「特色ある」「魅力ある」「力をつける」教育活動）を創造し、展開していく。 3. 「地域あつての岸本小、岸本小あつての地域」を合い言葉に、子ども・保護者・地域の人々に信頼され、元気と活力を発信できる「地域の学校」をめざす。そして、「子どもが心から来てよかったといえる学校」「保護者にも通わせて安心できる学校」づくりに全力で取り組む。 4. 小規模特認校として、常に「選んでもらえる・来てもらえる」学校づくりの意識をもって教育活動にあたる。
------	--

中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
豊かな心	○自己肯定観を育て、自己を高める努力ができるようにさせ、優しく思いやりのある岸本っ子を育てる。	家庭と連携を図りながら基本的な生活習慣の定着に努める。	生活リズム調査等を継続して取り組んできた。PTA研修会で高知大学教授を招聘し「脳の発達と睡眠」の学習を行った。	B	生活実態調査・生活リズム調査等継続した取組により基本的な生活習慣に努めている。	B	○生活実態調査を每学期行い、実態把握、分析考察を実践に生かす取り組みを引き続き行う。特に早寝・早起き・朝ごはん・家庭学習の時間・ゲームをする時間については、PTA研修会や健康教室、保健の授業等を通して、家庭と連携を取って基本的生活習慣の向上をめざす。 ○道徳教育の研究を継続し、児童・教職員の道徳心を高める取組を行い、更なる充実に努める。 生徒指導の3機能（自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する・自己決定の場を与える）を生かした魅力ある学校づくりを行い、いじめや不登校の未然防止に努める。 ○児童の自己肯定感を高めるために「いいところ見つけ」やボイスシャワーを続け、教職員共通理解のうえ肯定的な言動環境づくりに努める。 ○児童理解・情報の共有を職員会や支援会でさらに進め、全教職員で全校児童を支援する体制を継続する。
		道徳教育、人権教育の充実とその実践力を培う。	道徳教育の研究に引き続き取り組み、教職員及び児童の道徳的実践力を培ってきた。	B	道徳教育の研究に引き続き取り組み、更なる充実に努めている。	A	
		他の人の立場を思いやる子どもを育てる。	アンケートからは概ね良好ではあるが、成果を行動・日常化にさらにつなげたい。	B	行動化・日常化できる子どもの育成に努めている。	B	
		伸び伸びと充実した学校生活をおくることができるようになる。	受動的な言動からの脱却をめざし、成功体験や経験学習の充実を図る。	B	小規模を生かした取組により、落ち着いた学校生活が送られている。	B	
		様々な学習・体験活動を通して自己肯定感の育成や人との関わり合いを豊かにする。	自己肯定感のある児童が若干増加している。異学年や香我美幼稚園・香我美小学校との交流学习の充実を図る。	B	地域と連携を図り、様々な学習体験活動に取り組んでいる。	A	
		交通安全・学校生活のきまりなど、ルールを守る子どもを育てる。	学校内でのルール等改善がみられているが、校外での生活・行動に対する意識を高めたい。	B	ルールやマナーを守る規範意識の定着に良く努めている。	B	
		いつも元気に気持ちのよいあいさつが出来るようになる。	校内ではできているが、それ以外ではまだまだ指導を要する。	B	地域の人へのあいさつもだんだんとできるようになってきている。	A	
		特別支援の必要な児童に対する校内体制の整備と実のある実践に努める。	保護者と医療機関をつなげ、児童の学力・進路保障を進めることができた。具体的組織的支援体制を新規に構築し、積極的な活動ができた。	A	特別支援教育部会を構築し、支援会等を行う中で、児童の進路保障に取り組んでいる。	A	
確かな学力	○学ぶ意欲や喜びを体得させ、全国水準以上の学力を保障する。	授業を重視し、授業改善、指導体制の充実と工夫に努める。	道徳教育の手法を取り入れ、子どもを主人公とした授業改善に取り組んできた。	A	道徳教育等、授業改善に取り組んでいる。	A	○新学習指導要領の新しい教育観に則り、各教科において「見方・考え方」を働かせた「主体的・協働的な深い学び」のある授業改善の研究に努める。 毎学期の学力の検証を基に、個々の児童の課題に対応した長期休業中の宿題や加力指導を続けていく。
		基礎学力の定着、学力向上に向けた取組に努める。	毎学期検証を行い、児童1人1人の課題に対応する取組を行ってきた。	A	毎学期検証を行い、個々の児童の課題解決に取り組んでいる。	A	
		家庭と連携して家庭学習の習慣化に努める。	PTAに働きかけ家庭学習の習慣化を図り、理解協力を得ているが、個々には課題がある。	B	生活実態調査等の結果から保護者に働きかけ家庭学習の習慣化に努めている。	B	

○元気でたくましく生きるための体力づくり・人間関係づくりを推進する。	体力・運動能力の向上に努める。	「跳ぶ」「投げる」の数値があがっていない。遊びや授業での取組の工夫がさらに必要である。	B	なかよしタイム・授業等で課題解決に取り組んでいる。	B	<p>体力面の課題について、年間を通し体育の授業や全校的な活動のなかで体力向上・課題解決に取り組む。</p> <p>○基礎・基本の学力定着を大切にしながら、活用・思考問題に取り組む加力指導を週1回実施することを続ける。</p> <p>○教科・特活等児童が主体的に活動する場面を仕組み、達成感・成就感のある活動を仕組んでいく。</p> <p>健康教室等保護者向けの学習会を継続し、児童の朝食問題等の課題に取り組んでいく。</p>
	ねばり強くあきらめない子どもの育成に努める。	徐々に向上してきているが、個人差の拡大が課題である。岸本っこノートを使って自己目標を設定し振り返り、自己を見つめる取組を行ってきた。	B	目標をもって取り組ませ、その振り返りや教師からの評価をする取組が行われている。	B	
	食育の推進と充実に努める。	栄養教諭・養護教諭が中心となって食の改善に向けて取り組んできた。食育に対する意識を保護者に向けて栄養教室・健康教室として取り組んだ。	A	栄養教諭・養護教諭と連携し、児童・保護者への指導・啓発を行っている。	A	
○開かれた学校づくりに努め、保護者・地域に信頼される学校を確立する。	教育活動（行事等）の充実と満足度の向上を図る。	学級数・児童数減のなかで、行事の精選が必要になっている。来年度は統合を見据え、香我美小との交流学習を年20回以上行っていく。	B	少人数・複式学級のなかで工夫改善を図った取組が行われている。	B	<p>閉校の年にあたり、教職員がふるさと岸本を宝物ととらえ、地域の中の学校という意識をしっかりともち、地域の大切さを様々な活動を通して児童に意識づけさせていく</p> <p>○生活科・総合的な学習・特活の時間を使って、地域や外部人材との連携・活用の場を広げる。</p> <p>○保護者が参加型の行事になる工夫を行うとともに、参観週間・参観日の案内も地域の方々に届ける取組を継続する。</p> <p>○児童の課題・克服への見通し等を家庭訪問や面談を通して行うとともに、保護者・関係機関・地域とのつながりをより深めていくことを強めていく。</p> <p>○毎月の安全点検の継続、地震津波対策・不審者対応・Jアラート・火災等の避難訓練の継続及び環境を整えるとともに、安全でより良い行動を身につける実践を継続する。</p> <p>○教職員の資質向上を図るために職員会・常時の対話等で児童理解や学校教育目標・研究テーマの共通認識の徹底を図り、意思統一に努める。</p> <p>学校評価の結果から得た成果と課題を児童の肯定的評価につなげる学校改善を進める。</p>
	課題を明らかにし、その克服・改善に努める。	児童・家庭・学校の課題の発信に努め、学校・家庭・地域が課題を共有し、協力してその克服に努めていく。	B	課題を保護者・地域に発信し課題解決に努めている。	B	
	保護者・地域に対し、情報発信を積極的に行い、学校教育への理解を得る。	学級通信により児童の姿をこまめに保護者に伝えることができている。地域への発信面では弱さがある。同様の情報でも繰り返し発信し、計画的・意図的な情報提供を行う。	B	児童1人1人の姿が保護者に伝わるような学級通信による情報発信が行われている。	B	
	参観日など学校行事により多くの保護者や地域の方々が参加できるよう工夫する。	参観日や学校行事には、保護者・地域の方々も多数来校していただいた。PTA研修会や健康教室を新たに取組み保護者の参加を工夫できた。	A	児童や家庭の課題に対応した研修会の開催等で保護者の参加を増やしている。	A	
	安全安心な学校づくりに努める。（施設等含め）地震津波への対応に取り組んでいる。	地震・津波に対する児童の行動は定着している。（避難訓練年間10回実施）不審者・火災等の危機管理への意識向上を今年度図ることができた。また、Jアラート訓練は県内で最初に行った。	A	毎月1～2回の多様な避難訓練を行い、安心安全な普学校づくりを推進している。	A	
	職員は、意欲をもって教育活動にあたっている。	調査では概ね評価をいただいているが、教育実践の根幹にかかわる項目であるので、保護者・地域に伝わるよう開かれた学校にしていく。	A	教職員の姿から意欲をもって児童の教育に取り組んでいることが分かる。	A	
	職員はあいさつ等、適切で節度ある言動が取れている。	調査結果からは、改善傾向にあるが、児童に率先して手本となるような言動になれるよう努力が必要である。	B	あいさつやほめ言葉等、教職員自ら課題意識をもって取り組んでいる。	B	
	地域の人的・物的環境を積極的に活用している。	人材も豊富で、協力的な地域であるので、来校していただいたり、地域へ出ていったりする機会を増やして積極的に活用できた。	A	地域や外部人材と連携し、領域を生かした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	A	
	学校評価を実施し、結果を学校改善に反映させようと努めている。	アンケート結果を集計し全教職員で考察・分析を行っている。改善努力が児童・保護者・地域が感じ取れるよう今後とも努める。	B	学校評価の結果を分析し、学校経営に生かした取組を行っている。	A	

信頼される学校

【評価規準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	【学校経営の方向性】今一度原点に戻り、学級経営基盤の安定をめざして、児童理解力や学級経営力等の教員基礎力を主体的に磨くことを通して、学校としてのチーム力、学習力、授業力の向上につなげる。
	【学校経営基本理念】凡事徹底・率先垂範
	【学校教育目標】笑顔と「ありがとう」があふれる学校
	【目指す児童像【北極星】】「ありがとう」笑顔で言える子 言われる子 ~ 自分も大事 相手も大事 ~ 北極星を目指すための取組の三本柱 ・顔を見て笑顔であいさつをする ・「ありがとう」を伝える ・一緒にそうじをしてほめる
	【目指す学校像】通って楽しい学校 安心で安全な学校 協働して取り組む学校
【目指す教師像】授業力向上に努める教師 子供の良さを引き出す教師 子供のためにつながる教師	

【記号の意味】 : 成果 : 課題 改善策等
 【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

中期経営目標	短期経営目標 (取組)	学校関係者評価				
		自己評価 達成状況	評価	考察	評価	
豊かな心・主体性の育成	人間関係づくり・居場所づくり ・学級経営・学校行事	児童・保護者では、肯定的回答が90%を超える評価が継続しており、満足感をもって学校で生活している児童が大半といえる状況である。 教職員は86%の肯定的回答であり、しんどい状況にある児童が増加していることに課題意識を持つ教職員が増えている。	B	教職員の肯定的回答が低下しているのは、しんどい状況にある子供に目が向いている表れたと考える。先生が課題意識を持つことは、解決に向けたやる気や行動につながる。	A	学校ビジョンで共有した児童への関わりを徹底し、学校目標の具現化を目指す。 生徒指導の三機能を意識した授業づくりや児童との関わりを行う。
	多様で豊かな関わり ・体験活動・地域学習 ・環境教育の推進	学校内外での体験活動や外部ボランティアの活用が引き続き行われ、教職員も生活科や総合的な学習の時間において、体験的な活動を意識した実践が90%以上の割合でできている。	A	ボランティアは「ありがとう」の一言がやる気や励みにつながるので、大事にして連携した取組を今後も進めてほしい。	A	児童が主体的・協働的に取り組むことのできる活動を広げ、ボランティアの方には感謝の気持ちを伝える。
	生徒指導の充実と問題行動への取組 ・個々の児童の自己実現 ・不登校・問題行動への対応	いじめに対する危機意識や早期対応は教職員の中に浸透しており、命や社会のルールを守る指導についても教職員の肯定的回答は100%となっている。 学校にまったく登校できない児童はいないが、長期欠席の児童数が倍増している。 各設問で、保護者の肯定的回答は、児童や教職員より10~20%程度低い割合となっており、保護者からの信頼を十分に得ているとはいえない。	B	個々の事例に対する対応はしっかりと行っており、子供に寄り添う指導や支援ができています。 不登校傾向は件数として増加しており、いじめも起こっているため、未然防止への対応はさらに検討して取り組む必要がある。	B	学校で頑張っている様子や些細な出来事なども家庭に連絡を行うなど、保護者とつながる姿勢を大事にする。 いじめや不登校傾向の未然防止や早期対応のために、情報共有と初期対応の徹底を行う。
	生活習慣づくり ・早寝早起き朝ご飯 ・個別指導・生活がんばりカード	昨年度より児童と保護者の間での肯定的回答に差が見られる傾向が続いている。教職員の肯定的回答も減少しており、基本的な生活習慣が身に付いていない児童の生活改善が進んでいない状況がうかがえる。	B	家庭に起因することが多い課題であるが、生活がんばりカードは、保護者がやらされているという印象を持っているので手法を変えてはどうか。	B	低学年のうちに、学年に応じて身に付けてもらいた習慣や家庭で身に付けてもらいた習慣を通信などで具体的にお知らせしていく。
	学力調査等実態分析に基づいた学習の場の工夫 ・読解力 ・実体験を伴う理解 ・加力学習	授業を工夫しているは、児童・保護者・教職員とも90%を超え、国語科を中心とした学習指導要領を踏まえた研究実践が成果として表れており、学力調査結果にも結び付いている。	A	国語科の研究が学力調査の結果に結びつき、調査分析もしっかりと行っている。継続して取り組んでほしい。	A	取組は継続して行うとともに、研修等の様子も保護者にもお知らせして頑張りを知ってもらおう。
	わかる授業づくり ・付けたい力の明確化・系統性 ・評価規準の運用・単元構想力	授業がよくわかるでは、保護者の肯定的回答が89%と上がっており、児童や教職員は90%を超えている。年間指導計画に基づいた実践・校内研修や学年研修を授業に生かすこと・評価規準の具現化の各設問でも教職員の意識は90%を超えており、授業改善に向けた取組が継続的にできている。	A	授業改善に対する意識が高く、わかる授業を行うために熱心に取り組んでいることが、児童や保護者の肯定的な評価に表れている。	A	野市小方式の研究推進の見直しを行い、国語科の研究を中心としながら、他教科や領域を関連づけた計画を立て、すべての教科や領域でわかる授業づくりを進める。

学力の向上	一人一人の学習の保障 自主学習能力の育成	総合的な学習・生活科の充実 ・体験活動 ・課題解決学習 ・仲間とのかかわり	生活科や総合的な学習を探究的・協働的な活動にしようとする教職員の意識が90%を下回る結果となっている。若年教員が増加する中、実践のイメージを持ち切れていない実態がある。見直しが必要である。	B	課題意識を持っているので、生活科や総合的な学習の時間の改善に期待したい。	B	各学年で行う内容について見直しを行い、スタンダードを作ったり、授業展開のイメージを共有することを大切にして取り組む。
		読書習慣の育成 ・読み聞かせ	図書館活用や読み聞かせへの指導工夫は、90%以上の教職員が意識して取り組んでおり、児童の読書習慣も90%以上が継続しており、定着化が見られる。	A	子供の頃の習慣は一生につながるので、今後も大切に取り組んでほしい。	A	毎月の借り換え0冊の児童をなくすために読書の楽しさを味わわせるための指導を来年度も継続して行う。
		家庭学習の習慣化・家庭との連携 ・授業との連動 ・自主学習	家庭学習の習慣は、児童は90%を超えているが、保護者や教職員から見ると80%台の肯定的回答となっている。家庭で主体的に取り組むことができない児童の改善までには至っていない状況が推察される。宿題の提出に課題のある児童も増えている。	B	家庭学習は学校の問題というよりは家庭の問題である。習慣化が図られるように、家庭と連携した取組は継続してもらいたい。	B	通信や連絡帳を活用し、入学後より継続的に家庭への協力を求めて習慣化を行う。授業内容と関連させた家庭学習について、これまで以上に配慮していく。
		校内支援会の実働 ・定期的チェック体制と具体的な対応	校内支援委員会が機能し、児童の状況に応じた指導や支援の手立てが共通理解のもとに進められている。児童支援部会が中心となり、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりや環境整備が進んでいる。ICT等による視覚支援については評価が下がっており、適切な活用を再度意識づける必要がある。	A	児童の状況に応じた対応を進めるために、校内支援会や児童支援部会がしっかりと機能している。	A	特別支援コーディネーターを中心として、児童の実態共有や個別のケース会を継続して実施する。特別支援学級の運営について、保護者との共通理解を進める。
		個別の指導計画の作成 ・通常の学級に在籍している児童	特別支援学級での個別の指導計画作成は100%となっており、通常学級に在籍する支援が必要な児童の個別の指導計画や教育支援計画の作成も進んでいる。	A	個別の指導計画に基づいた支援を行うことができているので、今後も継続してほしい。	A	個別指導計画の作成を継続的に行い、配慮が必要な児童に対する適切な支援を今後も心がける。
		関係機関との連携 ・効果的な連携	医療や福祉事務所、関係機関との連携は、意識した取組が継続している。新1年生は保育所や幼稚園からいねいに引き継ぐことで、入学当初より児童に必要な手立てを取ることができている。	A	関係機関と連携した取組ができており、細やかな支援につながっている。今後も継続してほしい。	A	保護者との関係性を大事にしながら信頼関係を築き、児童の実態に応じた関係機関との連携を今後も継続して行う。
		学校教育目標具現化・共有化 ・職員会 ・学年会 ・各種会合	県や市の教育振興基本計画にそった学校運営や学校教育目標の具現化を意識した取組を教職員が行っている。学校運営が組織化され、各会議が目的に応じて設定や運営をされているが、チーム学校として組織力の高い運営をしていくために、学年内や学年間等で課題共有を図る手立てが必要となってきた。	B	基本計画や教育目標の具現化をめざす意識が共有されている。組織体制の改善を検討したり、既存の会議の中で共通理解を図ったりして、組織力の高い学校運営に結び付けてほしい。	B	年度当初に学校経営計画やグランドデザインをもとに、県や市の方針、学校の経営目標等を確認し合い、組織が有機的に結びつくように改善を図る。
		校務分掌の明確化と実践 ・個人・担当 ・協働 ・担当制 相談しやすい職場であることは、意欲を持って仕事に取り組むうえで根幹に関わる問題である。課題意識を持って、環境の改善に取り組んでもらいたい。	校務の適正化や校務分掌への協力では、それぞれの教職員が日々の実践の中で意識した取組を行うことができている。相談しやすい人間関係での肯定的な回答が非常に低い。年齢構成が二極化する中で、本音を打ち明けづらい雰囲気があるのではないかと。校務分掌上の配慮やミドルリーダーの育成に取り組み、相談しやすい体制づくりを構築する必要がある。	B	校務への意識は高く、適切な対応ができています。職場内での意思疎通が組織力の高い学校運営につながるため、方向性がバラバラではない。若年とベテランがかみ合った学校運営を行うために、努力をしてもらいたい。	C	若年教員の育成やメンタルサポートを考慮した分掌業務を年度当初に考え、育成とサポートのシステムを構築する。校務や研修について見直しを行い、教職員の関わりを増やす機会を設ける。

信頼される学校	<p>活力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率化 ・協働性 <p>教員の資質・指導力の向上</p> <p>安心・安全感のある学校</p> <p>地域との共生</p> <p>学校評価の実施</p>	<p>講師招聘研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の先生 ・関係機関の講師 ・保護者のボランティア 	<p>講師を招聘した校内研修や学年研修では、授業や指導の改善につなげるという意識を持って教職員が取り組むことができています。</p> <p>教育活動において外部講師と連携する取組は、年々肯定的回答が減ってきている。若年教員が増えてきていることから、外部人材を知る機会や連絡調整の手法を学ぶことが必要になっている。</p>	A	<p>熱心に校内研修に取り組み、指導力や資質の向上を図ろうとする意欲が感じられる。若年教員を育てる視点も大事にしてほしい。</p>	A	<p>講師招聘研修は、すでに計画を立て実施予定である。保護者や地域のボランティアとの連携は、のいちっこ協育ネットワーク『やすらぎのいえ』として、さらに広めていく。</p>
		<p>児童理解と学力定着をつなげる研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uの実施、分析を生かした活動の実践 	<p>先生が努力を認めてくれるでは、保護者の肯定的回答が89%に上がり、児童・教職員の回答は97%・100%と継続して高い割合となっている。児童に対して肯定的な関わりをすることが教職員に意識づいていることがうかがえる。</p> <p>児童相互間での悩みの共有は、児童・保護者・教職員とも肯定的回答が低く、児童の評価は昨年度から3%下がっている。児童間の関係の希薄化が傾向として見られる。</p>	B	<p>児童と先生の信頼関係がこの項目の評価において大事な内容である。児童の肯定的な回答は97%と高く、結果が出ている。</p>	A	<p>Q-Uの結果を分析し、エンカウンターや集団レク等、関わる機会を設け、人間関係を深める。</p>
		<p>危機管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校共有データ管理 ・個人情報管理 ・防災教育 	<p>危機管理システムについて、肯定的回答が低く、昨年度からさらに下がっている。危機管理の細かな確認と共通理解を図っていく必要がある。</p> <p>修繕を要する場所や施設抜かりなど施設管理に関する対応が必要な状況が多くあった。特別教室の活用についても共通認識を徹底していく必要がある。</p>	B	<p>今年度は引渡し訓練を行っていないので、来年度から毎年度行い、いざという時に備える体制を整えてほしい。</p>	B	<p>来年度は引渡し訓練を行い、隔年実施から毎年度実施についても検討する。</p> <p>保幼小合同避難訓練を保育所・幼稚園とともに協議して実施につなげる。</p>
		<p>P T Aとの協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P T A行事 ・P T A活動 	<p>P T Aや地域の活動に参加する教職員の意識は、90%未満となっている。必要性が高い活動には参加するが、時間的な余裕がない状況がある。</p> <p>P T A活動への会員の参加状況は一定の成果はあがっているが、参画意識は高いとは言えない。大規模校ゆえの保護者間のつながりの弱さがあり、職業の多様化もあって、ボランティア的な活動への協力体制が十分得られていない。</p>	B	<p>教職員の勤務実態もあり、学年P T A行事以外での協働は難しい面がある。P T A行事に参加するという協働ではなく、新たな協働のあり方を検討してみてもどうか。</p>	B	<p>学校支援ボランティアの取組を広げ、保護者の学校運営参画を進める中で、新たなP T Aとの協働体制づくりを検討していく。</p>
		<p>保護者・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境フェスティバル ・のいちまつり ・田園祭等 	<p>保護者との連携では、先生に対する児童の悩み相談で保護者63%と極端に低く、児童87%・教職員84%と大きな開きがある。また、先生の保護者相談への誠実な対応についても、教職員100%に対して保護者75%と開きが大きい。通信で学級の運営方針や児童の様子を伝えたり、連絡帳や電話による日々の連絡を大事にしたりすることで、保護者との信頼関係を構築していく必要がある。</p> <p>教職員の回答傾向から、相談には誠実に対応したり、意見を反映したりすることは心がけているが、家庭への情報提供では意識が弱まっている。未然防止や早期対応の観点からも、細やかな保護者とのやり取りが必要になってきている。</p>	B	<p>短期経営目標(取組)のと重なる内容が多く、評価が行ないづらいので、来年度は取組目標の項目立てを再検討してはどうか。</p>	B	<p>生活科や総合的な学習の時間を中心に、子供たちの取組や活動を地域に広げ、地域学校協働活動への取組を進めていく。</p> <p>短期経営目標(取組)については見直しを行い、学校経営計画のそった評価しやすい項目設定とする。</p>
		<p>学校評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会 <p>年3回</p>	<p>予定どおり年間3回の学校評議員会を開催し、学校評価の実施を行うとともに、6回の学校運営協議会設置推進委員会を開催し、学校評議員会から学校運営協議会への移行、学校支援地域本部の設置について協議を行うことができた。</p>	A	<p>学校評議員会だけでなく、学校運営協議会設置推進委員会も計画どおりに実施できている。今後は、具体的な内容に踏み込んだ協議を望みたい。</p>	A	<p>学校評議員会から学校運営協議会への移行年度として、会議の開催や情報発信を今年度以上に行っていく。</p>

経営理念	<p>「みんなが幸せになれる野市東小学校 - 学びがい、働きがいのある地域に愛される学校 - 」を目指す。</p> <p>めざす子ども像 ・学び合う子(知)・思いやりのある子(徳)・すこやかな子(体)</p> <p>めざす学校像 ・みんながしあわせになれる野市東小学校・確かな学力を育む学校・温かい人と人のつながりのある学校・保護者・地域から信頼される学校</p> <p>めざす教師像 ・楽しいよわかる授業で勝負する教師・教師という職業に喜びを感じる教師・子どもに寄り添い、一人ひとりを大切にしている教師・集団づくりを意識する教師</p>
------	---

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
豊かな心の育成	自己肯定感の育成や人間関係づくりを進める	Q-Uを実施し学級集団の状態を的確に把握し、より良い関係をめざす。 1回目より2回目の数値が改善している。 不満足群全学級で3%以下	・不満足群学校平均3.9%。3%以上が4学級。0%が7学級である。項目別では、全校平均「友だち関係」+0.1、学習意欲-0.1、「学級の雰囲気」+0.2である。	B	・改善している学級が多く、取組の成果が見られているが、学級によってばらつきがあるので全学級が共通理解をして居心地の良い学級づくりをしてほしい。	B	・児童の姿を見ているとおおむね良好な状態であると考えている。アンケートの結果などを見ても、全体的に年々改善が見られているので、取組の方向は今のままで行けばよいと考える。 学級によって取組に温度差がある部分については、足並みをそろえていく必要がある。更に自己肯定感を高める取組を進めてもらいたい。
	道徳教育を充実させる。(調査・研究・公開) ○道徳意識調査で、「道徳の時間はすきだ」の肯定的評価97%以上 ○「自分にはよいところがあると思う。」93%以上	・「道徳の時間は好きだ」の肯定的意見88.2% ・「自分にはよいところがあると思う」肯定的意見89.3%	B	・肯定的意見は目標数値より下だったが、90%近くというのは評価できる。評価の指標が非常に高いので達成は難しい。	B		
	人権教育を基盤とした「仲間づくり」に取り組む。(縦割り班活動の充実やことばを大切にしている気持の醸成など) ○縦割り班活動の充実 縦割り班活動を昨年度以上組み入れる。 「ちくちくことば・ふわふわことば」の取組実施 「ふわふわことばは増えた」強い肯定60%以上	・縦割り班掃除を年間7回実施し、1回につき、2日間に伸ばした。また、なわとび集会や6年生を送る会、地域クリーンアップ大作戦などでも、縦割り班活動を行った。 ・「ふわふわことばは増えた」強い肯定71%	A	・職員の見解も取り入れて、縦割り班掃除を2日に伸ばしたのは良かった。児童に合った取り組みに変更したのもよかったし、教職員も取組の方向性に自信が持てたと思う。「ふわふわことば」が増えたことも評価できる点である。	A		
	学校生活アンケート(いじめ調査)や学校アセスメントアンケートを実施し、指導に生かす。 ○学校生活アンケート「学校生活が楽しい」の肯定的評価98%以上「あてはまる」70%以上 ○学校アセスメントアンケート「わたしは、一人の大切な人間である。」肯定的評価95%以上、「よくあてはまる」73%以上	・学校生活アンケート「学校生活が楽しい」97%「あてはまる」77% ・学校アセスメントアンケート「わたしは、一人の大切な人間である」肯定的評価92.4%「よくあてはまる」74.8%	B	・非常に目指す値が高いので実現はなかなか難しいと思うが、強い肯定を増やす努力をしている点は、方向性としてはまちがっていないので、来年度は達成に向けて更なる取組をお願いしたい。	B		
読書活動の充実	朝の読書、読み聞かせ、図書を利用した授業を実施し、読書好きの児童を育てる。 ○一人あたりの図書貸し出し冊数月平均低18冊、中10冊、高5冊以上	・読書冊数低16.4冊、中13.0冊、高7.7冊で、低学年以外は目標を上回っている。学級によるばらつきがある。読書感想文コンクール学校優良賞	B	・ほぼ、目標は達成できているので学級によるムラが出ないように継続的に児童に意識付けをして取組を進めてもらいたい。本好きの子は多い。	B	・学級によるばらつきがないようにしていくことが課題である。	

<p>基本的な生活習慣や規範意識の定着に努める。</p>	<p>生活リズムの点検に取り組み、生活リズムの改善を意識させる。 ○生活点検の寝る時刻（低：9：00、中9：30、高10：00）の守れる児童を低・中・高で60%以上にする。</p>	<p>・生活点検の寝る時刻の守れた児童1年52%、2年52%、3年69%、4年80%、5年66%、6年48%で、平均は61%である。</p>	A	<p>・低学年の9：00という基準は今の時代では達成はなかなか難しいと思うが、学校としてしっかりと基準を示し取組をされて成果が残っている。</p>	A	<p>・掃除やあいさつは非常にいい状態になっている。生活リズムの面では、家庭への啓発や連携が非常に重要になるので、PTAの力も借りて、保護者と一体となった取組を進める必要がある。</p>
	<p>あいさつや掃除のできる児童を育てる。 ○学校アセスメントアンケート「わたしは、学校をきれいにしようとする気持ちを持って掃除している。」肯定的評価95%以上、「よくあてはまる」80%以上「わたしは、心が通うあいさつをしている。」肯定的評価97%以上、「よくあてはまる」72%以上</p>	<p>・学校アセスメントアンケート「掃除」肯定的評価97.4%「よくあてはまる」73.9%「あいさつ」肯定的評価94.1%、「よくあてはまる」73.1%</p>	B	<p>・掃除、あいさつともにアンケート結果を見ても日頃の児童の様子を見ても良くできている。無言掃除ができているところが高く評価できる。これからもこの状態を続けてほしい。</p>	A	
	<p>児童が「くらしのきまり（学校・夏冬休み）」を遵守する。 道徳意識調査「学校のきまりをまもっている」強い肯定65%以上</p>	<p>・休み中の地域から注意を受けることはほぼなくなった。 ・道徳意識調査「学校のきまりを守っている。」強い肯定60.3%</p>	B	<p>・ほとんどの児童は守れていると感じている ・以前と比べたら学校も落ち着き、規範意識は育っていると感じている。</p>	B	
<p>子どもたちが自ら考え表現でき、伝え合い、学び合いのある授業の創造を図る。</p>	<p>児童の考えや表現を大切にしたい伝え合い、学び合いのある授業を行う。（東小中学校授業スタンダードの実施） ○学校生活アンケートで、「授業がわかる」の設問で「そう思う」70%以上。</p>	<p>・伝え合い、学び合いのある授業がまだまだ不十分である。 ・学校生活アンケート「授業がわかる」の設問で「そう思う」67%</p>	B	<p>・計画的に授業研究が行われている。「授業がわかる」の肯定的評価も徐々に高まっているが目標には届いていないので更なる取組を望む。</p>	B	<p>・ICTの活用が積極的に行われているが、「授業がわかる」という児童の割合を更にあげる努力がほしい。着実に授業改善が図られ、学力の向上も見られている。教職員集団でベクトルを合わせて学級や学年でばらつきがないように取組む必要がある。</p>
	<p>算数科やICTを中心とした校内研修の活性化を進める。 ○全員が最低1回は研究授業を行う。 ○ICTに関して研修を深め、授業改善につなげ、その成果を他校に普及する。</p>	<p>・全員が、最低1回の研究授業を行った。ICTについても講師招聘を行ったり、新たなソフトの活用を取り入れたりした。また、市教研や情報担当者会等で、本校の取組を発表し、他校へのICTの理解を促進した。</p>	A	<p>・ICTの取組を香南市全体に広げたことは高く評価できる。校内研修も確실히行い、学力も向上傾向にある。OJT研修は今後も継続して取り組んでほしい。</p>	A	
<p>子どもたちの基礎学力の定着と、学力の向上に努力する。</p>	<p>全国学力調査・標準学力調査の結果を分析し、日々の授業づくりに活かす。 ○全国学力学習調査で全国平均を上回る。（6年） ○標準学力調査において、全学年全国平均を上回る。評定1の児童を全学年20%以下にする。（2～6年） ○高知県学力定着状況調査で、県平均を上回る。（4、5年）</p>	<p>全国学力学習状況調査では、全国比国A-6.8、算A-5.6、国B-1.5、算B-1.9で、全国平均を上回ることができなかった。 ・標準学力調査で、全国を上回ったのは、国算ともに、4年と5年。評定「1」20%以下は、国4年。 ・高知県学力定着状況調査正答率県との比較 4国+11.5%、算+12.7%。5国+4.8%、算+7.9%、理+4.5%</p>	B	<p>・全国学力学習状況調査では、全国平均を上回れていない。標準学力調査は、評定1の児童を減らす努力が求められる。学力向上の素地はできているので、取組の工夫をして向上を目指してほしい。</p>	B	<p>・基礎学力の定着に向けて、授業だけではなく、朝や放課後の時間を使って取り組んでいることがよくわかる。特に本年度から導入した地域や保護者の方々による丸付けは有効な取組であると感じる。特性の強い児童が多い中で大変ではある</p>

学力の向上		<p>定着が十分でない児童について、個別の支援を行う。</p> <p>○TT 体制で指導にあたる。</p> <p>○朝のウォーミングアップ・放課後パワーアップ教室を充実させる。特に朝のウォーミングアップを地域の方にも手伝ってもらい、基礎基本の徹底を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数科で、3年以上はTT体制で取り組んだ。 朝の加力は、地域や保護者のみなさんにもお手伝いいただき、充実させることができた。放課後も支援員の活用で充実させることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> TT や専科教員を使って、きめの細かい支援ができています。朝の加力は、地域の人にも協力してもらって充実している。教職員が一致協力して取り組んでいることがよく分かる。 	A	<p>が、ユニバーサルデザインの視点に立ってどの子どもにも学力が身につくような配慮がなお一層必要であると思う。</p>
		<p>特別支援教育に全校体制で取り組む。</p> <p>○定期的（月1回）に支援会を開催する。</p> <p>○SC や SSW 特別支援教育巡回アドバイザーとの連携を密に取り、対応を図る。</p> <p>○学校だけではなく、関係機関と連携を図りながら支援のしかたを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援会は定期的に行うことができた。また、SSW、特別支援教育アドバイザーにも入っていただいで実施できた。また、香南市の教育相談を積極的に活用し、児童の支援に役立てることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> その時々児童の状態やその支援方法を支援会で話し合い、意志統一して児童の指導にあたっては評価できる。また、関係機関との連携も積極的に行っている。 	A	
	<p>家庭学習の習慣化に努めている。</p>	<p>家庭と連携しながら、家庭学習が習慣化されていない児童について、家庭学習の支援を行い、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>○生活点検で家庭学習を「しない」の数値を6学年平均2%以下にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活点検で家庭学習を「しない」の数値1年5%、2年1%、3年9%、4年0%、5年2%、6年4%で、平均は3.5%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の力を借りるためにも保護者への啓発も大切である。更に取組を進めてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携が不可欠であるので、保護者も巻き込んだ取組にしていく必要がある。
学校の信頼	<p>保護者や地域との連携を密にし、信頼される開かれた学校をつくる。</p>	<p>保護者や地域に対して学校通信等により学校情報を積極的に発信する。</p> <p>学校通信「三宝」を、月に1回以上、校長通信「ひがし」を月3回以上のペースで発行する。</p> <p>学校HPを充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校通信は、月1.9回、校長通信は、月9.1回発行。 学校HPは、月1回の割合で更新した。 学校生活アンケートで、「学校が情報提供できているか」の設問が、92%から95%に向上 	A	<ul style="list-style-type: none"> 通信にタイムリーな話題をのせることで、児童と保護者の話題も多くなり良いと思う。情報提供もアンケートで見る限り良くできている。 	A	<p>・地域・保護者と学校の結びつきは少しずつ強くなっているのを感じる。保護者も地域も学校を信頼している様子が見て取れるので、更にその輪を広げてほしい。</p>
		<p>参観日などの学校行事へ保護者の参加が昨年度以上になるように工夫する。</p> <p>参観日1回当たりの参加人数160人以上</p> <p>懇談会の内容を事前に保護者に伝え、懇談への参加を増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参観日1回あたりの参加世帯162人。【4月177、6月181、10月144、11月146（世帯数199）】 懇談会の内容を学級通信や参観日のお知らせで周知できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 参観日への参加者が多くなるように色々な配慮がなされている。保護者の方々が子どもたちの様子を見たい、学級の育ちを見たいと思える授業や懇談の内容に今後もしてほしい。 	A	
		<p>児童にとって安全で安心できる学校づくりを行う。</p> <p>学期ごとに安全点検を行う。</p> <p>避難訓練を年間3回以上行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検は実施したが、事後対応が遅くなった。 避難訓練5回実施。（火災1、地震3、引渡1） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は、良くできていると思うが、更に様々な想定で実施してほしい。安全点検や不審者対策にも力を入れてほしい。 	B	
		<p>保護者や地域の方々の学校支援の充実を図る。</p> <p>学校支援地域本部事業を計画的に推進し、学校・家庭・地域が連携し、地域住民の参画による学校運営を推進する。</p> <p>年間のべ活動ボランティア数598名を達成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1年目の反省に立ち、学校支援地域本部の取組を支援して下さる方々の目線に立った取組にした。 ボランティア参加人数は、「朝の学習丸つけ」だけで、667名 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援地域本部事業は非常に充実してきた。「朝の丸つけ」がそのきっかけとなっている。今後も更に充実してほしい。 	A	

経営理念	<p>みんながかがやく佐古小学校「～自らチャレンジし、仲間とともに 力いっぱいがんばれる学校～」をめざす</p> <p>子どもたちが、日々前向きに仲間とともに全力でがんばれる学校でありたい。そして、子どもたち一人一人が、いきいきと安心して学校生活を送り、心身ともによりよく成長を遂げる場にしていきたい。教職員は子どもたちがかがやくために、子どもの成長に寄り添っていききたい。</p>
------	--

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価			
		達成状況	評価	考察	評価	改善策等	
学力の向上 ○基礎学力の確実な定着 ○思考力と活用力の育成	子どもに分かる授業づくり	○授業研修は予定通り実施できた。また、講師より新しい学習指導要領に向けた方向性を聞くことができた。 ○授業のねらいはほぼ達成できた。	B	新しい学習指導要領の移行に向けて、準備をしっかりとってもらいたい。英語については大変なことも多いとは思いますが。	B	○授業のゴールイメージを明確にし、ゴールに向けた授業のねらいを考えた授業づくりに努める。	
	思考力・表現力の育成	○標準学力調査や高知県学力定着調査の結果では、思考力に大きな課題が残った。	C		B	○新しい学習指導要領の移行期に入るので、その趣旨を確認しながら教育活動にあたる。	
	家庭と連携した家庭学習の習慣化	○「家庭学習の手引き」も活用しながら、家庭学習の定着に向けた取組を進めている。ただ、保護者の手が入りにくい家庭も少なくない。	B		仕事等の関係で子どもに関わりたくても関われない家庭があるのも事実だと思います。そんな家庭にどんな支援ができるのか考えて欲しい。	B	○家庭学習が次の日の授業につながるような課題の出し方やその量について全体で確認をしていく。
豊かな心の育成	道徳教育の充実	「規範意識の醸成」を中心課題において取り組んできた。道徳の授業時間ももちろんであるが、日常生活のなかでも声がけを続けている。道徳の教科化に向けての準備も進めてきた。	B	新しい学習指導要領の移行に向けて、準備をしっかりとってもらいたい。英語については大変なことも多いとは思いますが。	B	○道徳が教科化される。重点項目を中心に新しい指導計画を作成する。 ○評価のあり方について研修を進める。	
	○規範意識の醸成と自尊感情の育成 ○問題行動等の減少	生徒指導の充実	30日以上欠席者は6年生に1名いる。森田村やSSWと連携を取りながら対応にあたっている。生徒間暴力では、発達障害等配慮の必要な児童による件数が増加した。	B	SSWや民生委員が校内支援委員会に参加したり、家庭訪問することは継続して取り組んでもらいたい。	B	○外部の関係機関や地域の方の力を借りながら、生徒指導にあたる。 ○校内支援委員会を定期的に開催し、全校での共通確認を図る。
	読書活動の充実	読書ゆうびんやペア読書などの機会を多く取りながら、読書に親しむ雰囲気作りを進めてきた。2学期から1・2年生に週に1回の読み聞かせができるように地域の方がボランティアで入っていただけになった。	B	読み聞かせボランティアの輪をもっと広げていけたらいいと思います。子どもたちは楽しみにしています。	B	○読書に親しむ取組は継続して実施していく。 ○授業に図書館を活用して、思考力・表現力を育成する。	
健やかな体	○基本的生活習慣の定着	健康教育	生活ががんばりカードの継続的な取組により、基本的生活習慣の定着に向けた意識付けはできてきた。ただ、保護者の状況により定着しにくい家庭も少なくない。特にゲームの時間の長さが二極化する傾向にある。	B	課題があると思われる家庭ほど啓発は難しいと思います。有効な啓発方法を考えてもらいたいと思います。	B	○基本的な生活習慣定着についての保護者への啓発は継続して実施していく。 ○「ネット宣言」などを活用し、ゲームやインターネットについて啓発を行っていく。
	○運動習慣の日常化による体力の向上	体力向上	○全校集会等で体づくり運動を定期的で開催した。 ○体力テストでは、D・E評価の児童は減少していない。	C	授業だけで体力の向上を図るのは難しいと思います。家庭と連携した運動の習慣化も必要ではないでしょうか。	B	○スポーツテストの実施方法について研修を行う。 ○体力向上ハンドブックを活用した体育授業を実施する。
信頼される学校	保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する。	地域との連携・協働	○地域支援本部実施に向けて、本の読み聞かせや学習支援に民生児童委員さんを中心にボランティアとして学校に来ていただいた。	B	地域支援本部事業を有効に活用していただきたい。	B	○どんな支援を、どれくらいの時間数の支援を依頼するのかを学校として明確にしておく。 ○保護者への啓発を行う。
		保幼小連携	○多くの行事をほぼ計画通り実施することができたが、行事消化型に終わっている。	C	保育所、幼稚園がつけてくれた力をしっかり引き継いでもらいたい。	B	○各行事のねらいをより明確にしている。 ○スタートカリキュラムを見直し、より実務的なものを作り上げていく。
		防災・安全教育	○避難訓練は計画的に実施できた。 ○交通安全の指定事業を受けることで、交通安全に関する意識が高まった。	B	地域に呼びかけて、地域と連携した避難訓練、防災訓練を計画してもらいたい。	B	○避難訓練もいろいろな状況を想定したものに変わっていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	<p>【学校教育目標】郷土を愛し、豊かな人間性とたくましい力を持った実行力のある子どもを育てる めざす児童像 よく考え、進んで学習する子ども 素直で明るく、助け合う子ども 健康でたくましい子ども めざす学校像 活力あふれた学校 あたたく楽しい学校 地域に開かれた学校 めざす教師像 子どもを大切に、常に子どもと保護者と共に歩む教師 人間性を磨き、教育公務員として自覚を持って取り組む教師 お互いの良さを認め合い、協力して取り組む教師</p> <p>【学校経営目標】社会適応力を育てる教育実践と地域の信頼に応える学校づくり ~ 夜須中学校区の一貫教育推進を中心にして【移行期から定着期へ】 ~</p>
------	--

【評価規準】 A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		評価	達成状況	評価	考察	
学力の定着と向上	校内研修や授業研究の充実を図り、指導力の向上と探究・協働型の授業づくりを進める。	A	小畑壽先生を講師として小中合同授業研究を2回実施し、探究・協働型の授業づくりや学習への意欲化について研究を深めることができた。また、その他の校内授業研も計画どおりに実施することができた。	A	授業研究への取組はしっかりと実施できている。さらに、継続して授業力向上に向けた取り組みを進め、児童の学習成果へ結び付けてほしい。	小中合同の授業研究は継続して実施し、夜須小中学校授業スタンダードをもとにした校内授業研究を来年度も計画的に行う。新学習指導要領にそった探求型、協働型の授業作りの研修を行う。
	アクティブラーニングや視覚支援を取り入れた授業づくりを進め、基礎学力の定着と汎用的能力の育成を図る。	B	昨年作成した0歳から15歳までの夜須中学校区「家庭学習の手引き」を活用し、家庭訪問時等に各家庭でも活用してもらえるよう啓発した。	B	0歳から15歳までの夜須中学校区の「家庭学習の手引き」の活用を啓発しているがまだ定着までには至っていない。今後も活用を勧め、家庭学習の更なる定着化を図ってほしい。	作成した「家庭学習の手引き」の内容を学校だよりや学級だよりで周知しながら、粘り強く家庭学習の定着化を図っていく。
	中学校と連携して授業研究や乗り入れ授業を行い、専門性の向上と質の高い授業実践を行う。	A	合同授業研究や学力向上プロジェクト会は計画どおり実施できた、乗り入れ授業においても小中学校とも予定どおり実施し、中学校入学後の教科担任制への移行がスムーズに行われる見とおしが持てた。	A	乗入授業を年度当初の計画どおりに実施できたことは評価できる。今後も継続して実施可能な合同授業研究や学力向上プロジェクトの取り組みを充実させてほしい。	学力向上プロジェクト会を中心に学力の実態把握や授業改善に向けた取り組みを進める。今後も、授業乗入は無理のない計画を立て、年間を通じた実施を継続させる。
	中学校と連携しながら、系統性・継続性・適時性のある指導実践を行い、児童の学力向上を図る。	A	全国学力調査、高知県学力定着状況調査とも、全員解答・全員採点のサイクルで自校採点を行い、課題検証も職員全体で実施することができた。	B	全員で学校の学力課題を共通認識していることは評価できる。課題に応じた授業改善を行うことで、学力成果に結びつけてほしい。ただ、学力調査問題のA問題での落ち込みを回復するために反復練習不足は否めない。B問題結果の向上は評価できる。	学力調査について、全員解答・全員採点を継続して行い、課題検証と改善方を全校体制で協議する。学力の二極化を改善するためにも、算数教室や国語教室の在り方についても再考を要し個別指導を徹底する。
	新聞づくりや読書活動等を通して言語能力の育成に努める。	A	3年生以上で年間を通じ、はがき新聞を活用した言語活動を実践することができた。1階校長室前の廊下スペースには高知新聞を常設するなど環境面も整備し、記事投稿への取り組みも積極的に行った。	A	書くことに対する興味づけを考えたはがき新聞などへの取り組みは継続していくなかで成果がみられるようになってきた。今後も取り組みを継続し更なる定着化を図ってほしい。	今後もはがき新聞を中心とした新聞づくりの取組を継続し、ショートコメントや俳句づくり等、楽しみながら言語能力の育成を図ることのできる取り組みを継続実施する。

経営理念	<p>[学校教育目標] 郷土を愛し、豊かな人間性とたくましい力を持った実行力のある子どもを育てる めざす児童像 よく考え、進んで学習する子ども 素直で明るく、助け合う子ども 健康でたくましい子ども めざす学校像 活力あふれた学校 あたたく楽しい学校 地域に開かれた学校 めざす教師像 子どもを大切に、常に子どもと保護者と共に歩む教師 人間性を磨き、教育公務員として自覚を持って取り組む教師 お互いの良さを認め合い、協力して取り組む教師</p> <p>[学校経営目標] 社会適応力を育てる教育実践と地域の信頼に応える学校づくり ~ 夜須中学校区の一貫教育推進を中心にして [移行期から定着期へ] ~</p>
------	---

[評価規準] A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		評価	達成状況	評価	考察	
豊かな心の育成	多様な人間関係の中で自己を確立し、自己肯定感や自尊感情を育む教育活動を推進する。	B	校内研修や授業研究は計画どおりに実施し、道徳教育教科化に向けて準備を進めている。道徳意識調査の道徳的実践力については、2回の調査ともあまり変化は見られない。実践力に結びつくような授業実践を継続して行かなくてはならない。	B	意識調査の結果において、2回目の結果は1回目比べて相対的には上がっている。道徳的実践力の育成を意識して取り組みを継続してほしい。	道徳教育教科となるので、授業研究は継続して行い、指導力の向上と評価のあり方についての研鑽をつんでほしい。 道徳的実践力では、年間をとおして育成する項目を重点化し、全校体制で実践力の向上を図る。
	いじめ防止基本方針に基づき、いじめをしない・させない・許さない学校づくりを進め、誰もが楽しく過ごせる学校づくりを行う。	B	年間2回の調査分析を実施し、1回目の調査分析と学級運営改善の取組を行うなかで、学級不満足群は2回目まで減少している。しかし、昨年度と比較すると2回とも学級不満足群の割合は若干増加している。	B	学級での取り組みをとおして、不満足群が減少していることは評価できる。少数ではあるが、不満足の子がなくなるように、今後も継続して取り組んでほしい。	不満足群の減少、全校児童の自尊感情の向上に向けて、ほめる指導やほめ方の工夫、生徒指導の3要素を中心にすえた授業実践を継続する。
	保幼小中連携による系統的なキャリア教育を行い、将来への夢や希望を持った児童を育成する。	B	中学校区キャリア教育カリキュラムを中心に、キャリアポートフォリオの活用を進め、系統的な取組実践ができる環境を整え実践を継続している。	A	体験的な活動はかなり実施できているので、キャリアポートフォリオの取り組みがさらに成果に結びついていくと思われる。今後とも継続して実施してほしい。	中学校区キャリア教育カリキュラムに基づいた活動を、将来の夢や希望、地域に対する愛着感につながる取り組みへと更に充実させる。
	いじめ防止基本方針に基づいた取組や対応の徹底を図る。	B	学校生活アンケートの実施など、いじめ防止基本方針に基づいた取組は実施できたが、「嫌なことを言われる」「嫌なことをされる」といった項目は減少傾向にあり、学校全体として危機意識を持って取り組むことができた。	B	学校全体としていじめ解消を意識した取り組みを行っていることは感じる。児童の行動化に結びついてほしいので、課題解決に向かって実践を継続してほしい。	学年に応じた言葉の使い方について、ふわふわ言葉とチクチク言葉の指導等を通して身に付けさせ、相手のことを考えた言動の指導徹底を図る。
	保幼小中でユニバーサルデザインの保育・授業づくりを進める。	B	是永先生を講師に招いた校内研修や特別支援教育に関する研修に全員で参加するなど、ユニバーサルデザインの授業づくりに向けた取組を進めることができた。しかし、実践を通して成果に結びつけることはまだまだではあるが今後も継続していきたい。	B	重要な今日的課題であるので、研修を継続して深め、児童に寄り添う指導支援を行い、ユニバーサルデザインの授業づくりを進めてほしい。	是永先生を講師に招いた校内研修を継続するとともに、「すべての子どもが分かる・できる授業づくりガイドブック」(高知県教育委員会)をもとに、ユニバーサルデザインの授業づくりを進める。

経営理念	[学校教育目標] 郷土を愛し、豊かな人間性とたくましい力を持った実行力のある子どもを育てる めざす児童像 よく考え、進んで学習する子ども 素直で明るく、助け合う子ども 健康でたくましい子ども めざす学校像 活力あふれた学校 あたたく楽しい学校 地域に開かれた学校 めざす教師像 子どもを大切に、常に子どもと保護者と共に歩む教師 人間性を磨き、教育公務員として自覚を持って取り組む教師 お互いの良さを認め合い、協力して取り組む教師 [学校経営目標] 社会適応力を育てる教育実践と地域の信頼に応える学校づくり ~ 夜須中学校区の一貫教育推進を中心にすえて【移行期から定着期へ】 ~
------	--

[評価規準] A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		評価	達成状況	評価	考察	
体力の向上と健康・安全への理解	授業での体力づくり運動や体育的行事を通して、積極的に運動に親しむ態度や運動能力の向上を図る。	B	体力調査の結果送付が3学期に入ってからということはあるが、昨年までの要因分析やそれに基づいた授業改善を意識的に行うことにより全体的に改善がみられた。	A	調査結果の送付が遅いことにより、授業改善に結び付けられなかったことは致し方ないこと。体力調査結果を意識した取り組みは学校として実施できている。	本年度の体力調査結果をもとに、来年度の体力づくり運動の改善を検討し、授業を中心とした取り組みの充実を図る。
	授業での体力づくり運動や体育的行事を通して、積極的に運動に親しむ態度や運動能力の向上を図る。	B	授業での体力づくりは進み、全国体力調査でも全国平均を上回る結果を出すことができた。しかし、全校や中学校区で具体的な系統的プログラムを作成して取り組むまでには至らなかった。	A	全国体力調査に顕著な結果が出てきている。今後も児童の体力向上を図る取り組みを継続実施してもらいたい。	現在の取り組みを継続するとともに、体幹を鍛える運動についても研究を深め、0歳から15歳までの系統的なプログラムを検討する。
	心身の健康の保持増進に向けて、生活習慣の改善に自ら取り組むことのできる資質や能力の育成を図る。	A	意欲づけや練習期間の増加に努めることにより、体育的活動の充実を図ることができた。特に、昨年度から始めた小中合同体育祭は、異年齢と運動を楽しむ機会として充実した行事となった。	A	小中合同体育祭の実施は、地域からも高い評価を受け、中学校区の一部感を感じる取り組みでもある。異年齢の交流を大事にしながら、今後も継続開催してもらいたい。	今年度実施した体育的行事への取り組みを検証・改善しながら、継続して実施してほしい。
	生活改善プロジェクト会を中心に、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を充実させる。	B	中学校区での生活実態調査を行い、夜須っ子通信で保護者に結果を伝えて啓発を図るとともに、家族ふれあい週間での取り組みも継続的に行ったが、生活習慣の改善までには至っていない。	B	生活実態調査や通信による啓発活動を中学校区で連携して取り組んでいることは評価できる。成果に結びつけるために、粘り強く取り組みを継続してほしい。	生活実態調査や夜須っ子通信の取り組みは継続し、啓発方法については、夜須町P連とも連携した取り組みを行う。
	体験的な活動を通して、食に関する意識の向上を進め、望ましい食習慣の形成や食文化の伝承を図る。	A	食に関する体験的な活動は全て今迄どおり継続実施することができ、新たな体験活動も地域の方々の協力を得て実施することができた。	A	教職員数が減少するなかで、体験活動を重要視して継続実施できたことはよかった。関係機関の協力も得ながら、今後も計画的に継続して活動を続けてほしい。	本年度実施した食に関する体験的な活動及び、生産者との交流活動は、今後も継続して行い、定着化を図る。

経営理念	<p>【学校教育目標】郷土を愛し、豊かな人間性とたくましい力を持った実行力のある子どもを育てる めざす児童像 よく考え、進んで学習する子ども 素直で明るく、助け合う子ども 健康でたくましい子ども めざす学校像 活力あふれた学校 あたたく楽しい学校 地域に開かれた学校 めざす教師像 子どもを大切に、常に子どもと保護者と共に歩む教師 人間性を磨き、教育公務員として自覚を持って取り組む教師 お互いの良さを認め合い、協力して取り組む教師</p> <p>【学校経営目標】社会適応力を育てる教育実践と地域の信頼に応える学校づくり ~ 夜須中学校区の一貫教育推進を中心にして【移行期から定着期へ】 ~</p>
------	--

【評価規準】 A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		評価	達成状況	評価	考察	
信頼される学校づくり	PTAと連携して、子育て支援や保護者ネットワークの強化を図る。	B	夜須小PTAや夜須町P連と連携して、スポーツ交流会や一日先生などネットワークの強化につながる行事を実施することができた。 しかし、保護者意識や保護者連携の向上にはまだ成果が見えない。	A	PTAと連携した取り組みは定着しており、地道にそれを続けていくことが成果に結びつくので、保護者との連携を大事に考えて今後も取り組んでほしい。	夜須小PTAや夜須町P連との連携を大事にし、情報発信や情報共有を図りながら、保護者ネットワークの構築を進める。
	防災教育や危機管理体制の充実を図り、児童の安全確保への取組を充実させる。	B	中学校区で作成された防災マニュアルに則り、現在の環境下での一次避難や二次避難について確認を行うことができた。 保護者・地域に対する被災時の避難方法や連絡体制の周知については、まだまだ十分とは言えない。	A	地域の防火女性クラブとの連携による低・中学年の防災学習や、高学年と中学生の合同防災学習など、防災意識に向けた新たな取り組みも実施し、来るべき南海大地震に備えていかなければならない。	地域と連携した防災学習を継続して実施し定着を図るとともに、夜須中学校区の防災マニュアルの改善及び周知を進める。
	地域の人材を活用した取組を積極的に導入し、地域ボランティアの組織化を推進する。	B	YASUらぎ子ども支援ネットワークの活動連絡会を開くなど、支援ボランティア間のつながりはできてきた。さらに、意欲のある地域ボランティアを学校内外の活動に生かすことのできる体制づくりを進めていきたい。	A	地域ボランティアの組織化は、段階的に進んできているので、無理なく、ボランティアの生きがいと学校の負担感の解消につながる推進体制をさらに整えていってほしい。	YASUらぎ子ども支援ネットワークの活動を定着させ、無理なく、楽しくできる活動となるように体制づくりの整備をさらに進める。
	学校評議員制度を有効活用し、学校の運営改善を積極的に図る。	B	学校評議員会で出た意見を取り入れながら学校運営の改善を進めることができたが、協議回数や協議時間の確保等、今後の検討していきたい。	B	意見を反映した取り組みを行っていることが、日頃の教育活動からうかがえる。さらに取り組み実践の情報提供をていねいに行ってもらおうと、より学校の運営状況が把握しやすくなる。	中学校区での合同評議員会として実施して、意見の集約を図るとともに、学校運営協議会への移行も見据えた協議を進める。
	保護者や地域との共通理解を図りながら、保幼小中一貫教育の具現化を図る。	B	一貫教育(隣接型)の取組を学校だよりやPTA総会で周知することにより、保護者からの一貫教育に関する肯定的意見は増加してきている。今後もさらに具現化を図っていきたい。	A	一貫教育に関する地域の肯定的評価が向上している。学校だより等で取り組みを発信することにより、さらに取り組みの情報が伝わると思われるので発信を継続してほしい。	学校だよりを見やすくし、工夫した紙面づくりを行い情報発信をしてほしい。誰もが見やすくなるように改善してほしい。

学校経営方針	学校教育目標【わたしがすき なかまがすき ふるさとがすき】
	児童の姿 かけがえのない自分を自分らしく生きる子ども なかまのよさや個性を認め、支えあう子ども ふるさとを愛し、地域の人々とのかかわりを大切にしている子ども 豊かな道徳性や人権意識をもった子ども 主体的・協働的に学ぶ子ども
	学校の姿 豊かな心を育む学校 確かな学力を育てる学校 子ども・保護者・地域に信頼される開かれた学校
	教師の姿 豊かな人権意識を身につけた教職員 子どもを肯定的にとらえ、学びを支援する教職員 子ども、家庭、地域の願いを受けとめ、実践する教職員 仲間と協働し、課題解決に努力する教職員 教育に対する高い専門性を身に付けるために自己研鑽する教職員

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

	中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	学校の自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
豊かな心の育成	「自分によいところがある」と答える児童85%以上を目指す。 「本を読むことが好き」と答える児童90%以上を目指す。 道徳教育・人権教育に施積極的に取り組む。	道徳教育や人権教育を通じて、社会性や規範意識を身につけると共に、命の大切さや自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を育てる。	道徳・人権参観日には授業公開を行った。2・3年、4・5年生は、赤岡小学校との交流学習で人権について学んだ。心のアンケートでは75%が満足群、要支援群が0%になった。関連して校内が落ち着いてきた。道徳意識調査「道徳の授業が好き」の肯定的評価は88%。いじめの報告件数は7件、解決済は6件、観察中1件。	B	発達障害ということばをよく聞くが、保護者や地域の人ほどの程度理解しているだろうか。PTA講演会に取り入れ、みんなで理解することが大切だと思う。発達障害児童生徒へのいじめの話の聞いたりするが、そうしたことを防ぐためにも大切なことだと思う。	B	道徳意識・人権感覚を高める声かけを日常的に行い、児童が「学校が楽しい」と答えられる学校づくりに今後も取り組んでいく。いじめ問題には、特に注意していく。
		特別支援教育について研修を行い、指導力を高めるとともに、校内支援体制を充実させる。	山田養護学校片岡先生・高知大学鈴木先生・スクールカウンセラー相原先生を講師に迎え、児童の様子を観察した後、事例を基にした研修会を実施した。定期的に校内支援会を実施し、児童の支援方法について確認できた。生徒指導を含め、予防を含んだ取組を重ねてきた結果、校内が落ち着きつつある。	A	吉川小学校全体に、ずいぶん落ち着きを感じられる。先生方の指導と保護者の協力があるからこそ達成できることだと思う。今後もがんばって欲しい。	A	特別支援教育については成果が上がっている。支援会の在り方や校内研修等の取組を継続して行っていく。また、SC・SSWと連携を深めていく。
		読書活動を推進し、年間の貸出冊数を5%以上増やす。	アンケートで、83%の児童が「図書の本を多く借りた」と回答した。目標冊数達成者は71%。担任からの声掛けが少なかったためか、昨年度の貸出冊数と比べ24%減であった。読書への興味関心を高める選書会が開催できた。読書感想文・感想画コンクールに積極的に参加した。	B	読書活動については、貸出数が増えることを期待する。小規模校の特性を生かし、体験活動が充実していた。これからもいろいろなことに子ども達を挑戦させて欲しい。	B	全教員で読書活動を見直し、図書の利用を盛んにする。読み聞かせを定期的に設け、児童の本への興味関心を高める。
		体験活動・地域学習を通して郷土愛を育てると共に、自主性や社会性を身に付けさせる。	授業の中での体験活動・学校支援地域本部事業・こども応援隊事業等の活動で、講師を迎えたり地域に出かける機会が多く、活動が充実していた。地域清掃や堤防への壁画描きなど、地域に貢献する活動を積極的に取入れた。「ふるさと吉川が好き」の肯定的回答は、91.7%あった。	A	基本的な生活習慣の確立（早寝・早起き・朝ご飯・朝うんち）に向け、保護者をもっと巻き込み取組んでいって欲しい。	A	今後も地域に貢献できる活動を行い、郷土愛を育てるきっかけへとしたい。「吉川が好き」と回答する児童を100%まで高めたい。
		生活調べの調査結果を基に、基本的な生活習慣の確立を図る。	学期ごとに生活調べを行い、調査結果を児童・家庭に返してきた。担任・養護教諭から該当児童に指導を入れ、改善に努めた。「早寝・早起き」が守れた児童は79.2%で、年間を通して達成率が低かった。	B		B	「早寝・早起き」を定着させる取組・声かけを、今後も継続する。85%の達成率を目指す。
		全教員が授業研究を積極的に行い、授業力の向上に努め	各学級が研究授業を行った。授業後の協議も2グループに分かれて行い、振り返ることで授業改善へとつなげた。		授業改善が進み、アンケートで「授業が分かる」と回答する		学習リーダーの育成に今後も取り組んでいく。

学力の向上	各学力調査において、平均以上の成果を目指す。 体力調査において、平均以上の成果を目指す。	る。	複式指導研では、講師を招聘して学習リーダー育成の重要性について学び、その後単式・複式学級で取組んだ。新たな教育の方向性である「主体的・対話的で深い学び」へとつなげた。	A	児童が高い割合でいることはすばらしい。しかし、学力調査の結果がそれに伴っていないことは残念であり、今後も成果が上がるよう学力向上に向け全校を挙げて取組んで欲しい。 吉川小学校の児童を見ていると肥満傾向の児童の割合が高いように感じる。体力・運動能力調査の結果がそれと関連しているのではないかと思う。学校が体力向上に向けて取組むと同時に、家庭にも食生活と運動の重要性を呼び掛けていって欲しい。 現在も取組んでいるようだが、朝の5分間走をもっと長い期間取組むのも、一つの解決手段だと思う。	A	授業の中で考える場面を設定し、深い学びへとつなげていきたい。
		個人カルテを作成し、一人一人の学力の状況をつかむ。それを基に、加力指導を行い基礎学力定着を図る。	本校のような小集団では、平均点での比較が困難である。個々に照準を当てた指導を行うために、学力定着の状況をつかむ手立てとして個人カルテを作成した。これまでの学習調査の結果から、個人や集団の課題をつかむことができた。	B		B	個人カルテ基にして、支援が必要な児童への加力指導を全教職員が協力し取組んでいく。
		授業スタンダードの定着を図るとともに、児童の肯定的な授業評価を85%以上にする。	これまでであった授業展開例を見直し、新たに授業スタンダードを作成した。授業の流れを揃えたことで児童にも授業の流れが分かりやすかった。「勉強が分かった」「算数・国語の勉強は分かった」と回答する児童は93.8%あった。	A		A	授業の流れを定着させ、児童が分かりやすい学習活動を作り上げる。
		家庭学習について全教員が共通認識を行い、家庭学習の内容の改善を図る。また、てびきを配布し、習慣の定着を図る。	家庭学習の内容を学年ごとに出し合い、学年に応じた宿題や勉強時間を確認した。宿題の提出率は約93.3%だった。学習の手引きは1年生に配布し、習慣化を目指した。複式の学級では、予習に取組む学年もあった。	B		B	家庭での学習内容を工夫し、家庭で机に向かう習慣を身に付けさせたい。時には、予習に取組ませる。
		体力・運動能力調査の項目を体育の授業に取り入れるなど、授業改善を行う。	体力・運動能力調査の結果は、D・E判定が29.4%あった。体力向上を目指し、体育の時間の運動量を高めたり、体育の時間外で運動を取り入れるなど各学年で工夫した。	B		B	運動量のある体育の授業へと改善する。休み時間の外遊びを呼び掛ける。
		講師を招聘し、運動の技能を高める。	水泳・バスケットボールで講師を招聘し、児童の運動力アップに取組んだ。また、講師の指導法や声掛けの仕方をその後の指導に取り入れ、教員への研修にもなった。	B		B	長期の休みを利用し、体育研修(なわとび等)を取り入れる。
信頼される学校	保護者・地域と連携し、地域に開かれた学校づくりを進める。 保護者・地域と連携し、防災意識を高める。	各種たよりやホームページ等を通じて、保護者や地域へ積極的に情報を提供する。	学級便り・学校だよりの配布、ホームページの更新を定期的に行い、学校からの情報発信に努めた。 行事の取材を高知新聞社に依頼し3回掲載された。今後も発信をしていく。	B	学校支援地域本部の活動を中心とした地域・保護者との連携がよくできている。支援が必要な時は、吉川町子ども応援隊に相談をしてもらえば協力できる。 赤中地区教育懇談会の取組は歴史もあり、よく取組んでいる。今後も継続して欲しい。 防災の取組は、他校と比較してもよく取組んでいる。アンケートで「一人で避難できる」と回答する児童が100%ということから成果をうかがうことができる。 避難タワー(Y3)に子ども用の備蓄品を置くことを、市に要望してはどうか。	A	お便りを使った情報発信はこれまで通り続ける。メディアを利用した情報発信はさらに回数を増やしていく。
		学校支援地域本部事業を推進し、開かれた学校づくりを進め、多くの保護者や地域の方が学校行事に参加しやすいようにする。	学校支援地域本部の活動を通して、保護者・地域の方に多く足を運んでいただいた。参観日、保護者の参加は多かった。今後は各種行事の内容を工夫し、参加しやすいものへと変えていきたい。また、地域への声の掛け方を考えていく。	A		A	学校支援地域本部コーディネーターとの連携を密にし、活動を盛んにする。地域の方には、行事を通し学校訪問を呼びかける。
		保育所や赤岡小学校、赤岡中学校との連携を進め、児童や教職員の交流活動を充実させる。	赤中地区教育懇談会を基に、保小連携・小小連携・小中連携を行った。本年度は、計画の見直しを行ったことで事業の精選ができ、時間が取りやすかった。	A		A	保小の連携については、計画を立て継続して取り組んでいく。
		年5時間の防災教育、年6回の避難訓練を行う。また、保育所を含む地域と連携し、訓練を行う。	昨年度作成した防災授業の展開例を参考に、全学年が5時間の授業を行った。 避難訓練は年間6回実施。内3回は保育所と連携して実施した。消防団・自主防災組織にも関わっていただき実施できた。	A		A	地域と連携した訓練を実施するなど、津波避難の意識をさらに高めて行く。
		児童の安全教育・安全対策を充実させる。	安全教室は例年通り実施。1年間を通して、安全確保に努めた。集会で交通安全等の呼びかけ(複数回)したためか、大きなけがや事故は0件であった。	B		B	自転車の乗り方については、指導を徹底していく。

